

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 5 月 22 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (5/22 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h	24.0	106.3 kPa abs	A系： 0.06 vol%
		給水系：約 2.2 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.05 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.5 m <sup>3</sup> /h	37.2	5.92 kPa g	A系： 0.06 vol%
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.5 m <sup>3</sup> /h	35.2	0.25 kPa g	A系： 0.13 Vol%
		給水系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.12 vol%

\*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

・H25/5/22 14:19 1、2号機原子炉への注水量の低下が確認されたため、以下の通り、注水量の調整を実施。

[1号機] 給水系からの注水量を約 2.2 m<sup>3</sup>/h から約 2.5 m<sup>3</sup>/h に調整、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.8 m<sup>3</sup>/h から約 2.0 m<sup>3</sup>/h に調整。

[2号機] 給水系からの注水量を約 1.8 m<sup>3</sup>/h から約 2.0 m<sup>3</sup>/h に調整、炉心スプレイ系からの注水量を約 3.4 m<sup>3</sup>/h から約 3.5 m<sup>3</sup>/h に調整。

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (5/22 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	22.5
2号機	循環冷却システム	運転中	22.3
3号機	循環冷却システム	運転中	20.1
4号機	循環冷却システム	運転中	28

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルへヒドラジンの注入を適宜実施。

[6号機]・H25/5/20 使用済燃料プール内に設置されている使用済燃料ラックの点検を開始。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋地下	5/18 10:10～ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋) ]	5/15 17:20～ 移送実施中

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系\*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。

\*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

< 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (5/22 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

\*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/3/30 9:56～ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A～C)のうちA系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験(ホット試験)を開始。

< 5 . その他 >

・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5,6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。

・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

・H25/1/8～ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。

[地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績]

< 地下貯水槽に貯水している水移送実績 >

5/21 10:19 地下貯水槽 No.6 から G6 タンクへの移送を開始。なお、地下貯水槽 No.3 および No6 から G6 タンクへの移送については、共通の移送ラインを使用することから、交互に切り替えて移送を実施する予定。

< 拡散防止対策 >

5/22 地下貯水槽 No.1～3の漏えい検知孔内に漏えいした水および地下貯水槽 No.2 のドレン孔に漏えいした水をノッチタンクへ移送する処置を実施。

< サンプルング実績 >

5/21 地下貯水槽 No.1～7のドレン孔水(14箇所)、地下貯水槽 No.1～4,6の漏えい検知孔水(10箇所のうち2箇所は試料採取不可)、地下貯水槽観測孔(22箇所)、地下水バイパス(調査孔a～c、揚水井1～4。調査孔は3箇所のうち1箇所は試料採取不可)、および海側観測孔～についてサンプルングを実施。分析の結果、前回の分析結果と比較して大きな変動は確認されていない。また、5/13から5/14にかけて採取した、地下水バイパス(調査孔a～c、揚水井1～4。調査孔は3箇所のうち1箇所は試料採取不可)、および海側観測孔～の水についてトリチウムの分析を実施した結果、前回の分析結果と比較して大きな変動は確認されていない。

5/21 地下貯水槽 No.2 周辺で新たに掘削した観測孔2箇所(2-9,2-12)の水の全ベータ分析を実施した結果、観測孔 2-12 において全ベータを検出( $2.9 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$ )。観測孔 2-9 については検出限界値未満であることを確認。

5/22 地下貯水槽 No.2 周辺で新たに掘削した観測孔2箇所(2-10,2-11)および、昨日(5/21)の分析結果において、全ベータが検出された観測孔 2-12 の水の全ベータ分析を実施した結果、観測孔 2-12 において昨日(5/21)と同じレベルの全ベータを検出( $3.8 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$ )。また、観測孔 2-10 および 2-11 についても全ベータを検出したが、観測孔 2-12 よりも低い値であった(2-10: $1.0 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$ 、2-11: $3.3 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$ )。

明日(5/23)は観測孔 2-8 および 2-13 の分析を予定しており、これに併せて本日(5/22)全ベータが検出された観測孔 2-10 および 2-11 についても分析を行う予定。

以上